

---

# Sun Ray™ Connector for Windows OS

## Version 1.0

### ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 819-4667-10  
2006 年 5 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Ray, Sun Ray Connector for Windows OS, Sun WebServer, Sun Enterprise, Ultra, UltraSPARC, Sun Java Desktop System, SunFastEthernet, Sun Quad FastEthernet, Java, JDK, HotJava, Appliance Link Protocol (ALP) は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape は、米国 Netscape Communications 社の商標もしくは登録商標です。

OPENLOOK, OpenBoot, JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Ray™ Connector for Windows OS, Version 1.0 Release Notes  
Part No: 819-4667-08  
Beta Refresh



# 目次

---

SRSS 3.1 パッチの依存性および入手可能性について 1

既知の問題 2

TSOL の制限事項 5

Windows の制限事項 5

マニュアルの発行 6



# Sun Ray Connector for Windows OS ご使用にあたって

---

Sun Ray™ Connector for Windows OS は、Sun がサポートする、Microsoft 認定の  
端末サービスクライアントで、Microsoft Remote Desktop Protocol (RDP) Version  
5.2 に基づいています。これについては、『Sun Ray Connector for Windows OS イ  
ンストールおよび管理マニュアル』に記載しています。便宜上、Sun Ray Connector  
for Windows OS を Sun Ray Connector と呼びます。

---

## SRSS 3.1 パッチの依存性および入手可 能性について

---

注 – サポートされるすべてのプラットフォームで Sun Ray Connector を正常に動作  
可能にするバージョンのパッチは、Sun Ray Server Software 3.1 リリースイメージの  
Patches セクションにあります。このパッチがシステムにインストールされているこ  
とを確認してください。

---

表 1 Sun Ray Connector の SRSS 3.1 パッチ番号

Solaris SPARC	120879-02
Solaris x86	120880-02
Linux	120881-02

表 2      日本語キーボードのパッチ

Solaris 8 SPARC	111075-05
Solaris 9 SPARC	113764-04
Solaris 8 X86	113765-03
Solaris 9 X86	114539-02

## 既知の問題

ここでは、最新の既知のバグを、回避方法がわかっている場合はそれとあわせて示します。

### バグ ID 6344683

Windows ターミナルサーバーセッションでシャドウユーティリティを実行すると、Solaris SPARC プラットフォームで `uttsc` がクラッシュします。

### バグ ID 6345509

Sun Ray セッションで `gedit` または `OpenOffice` から Windows アプリケーションへの転送で、カット&ペーストメニューオプションが正しく動作しません。

この問題は GNOME および StarSuite に関連するものであることが判明し、該当するバグが登録されています。

この問題を回避するには、メニューオプションを使用する代わりに `Ctrl-C` および `Ctrl-V` を使用して、カット&ペーストの操作を実行します。

### バグ ID 6358380

複数のシリアルポートが切り替えられると、シリアルポートの切り替えは正しく動作しません。

## バグ ID 6359564

次のすべての条件が当てはまる場合、ホットデスクを行なったときに画面が黒く表示されます。

- CDE を Solaris のデスクトップマネージャーとして使用する
- -m オプションを使用するなどして、Sun Ray Connector を全画面モードにする
- 画面ロックを有効にする

回避方法は、画面がロックされていない場合でも、ユーザーのパスワードを入力して画面のロックを解除することです。これによって、セッションが正しく表示されます。

## バグ ID 6360175

Windows 2000 に付属するいくつかのスクリーンセーバーには、多くのアニメーションが含まれています。Windows 2000 のスクリーンセーバーが動作している Sun Ray Connector のセッションは、Sun Ray サーバーの CPU を過負荷の状態にする可能性があります (Sun Ray Connector および X サーバーは高い CPU 使用率を示します)。この問題は Solaris 8 上でのみ発生します。

この問題の解決方法は、ユーザーセッションでこれらのスクリーンセーバーを使用しないことです。Terminal Services のセッション中にスクリーンセーバーを無効にする方法についての情報は、Windows のマニュアルを参照してください。

## バグ ID 6361417

特定の状況下で、シリアルポートを Windows ターミナルサーバーに切り替ええると、Sun Ray サーバーの CPU が最大 99% 消費される場合があります。

## バグ ID 6363133

いったんコピー&ペースト操作を実行すると、それ以降同じ dtterm ウィンドウから Windows アプリケーションにコピー&ペーストした場合、常に最初に行なった操作のデータが示されます。

## バグ ID 6382123

Windows と Red Hat のロック画面は、uttsc の -m オプションを使用すると、異なる動作を示します。この問題を回避するには、次の手順を実行します。

- Red Hat では全画面モードを使用しない。
- -o オプションを使用して、ホットデスクでの切断および再接続を防ぐ。
- サーバーに対する xscreensaver を無効にする。

---

注 - xscreensaver を無効にするとセキュリティーが保護されなくなるため、最良の選択ではありません。

---

## バグ ID 6383162

Windows アプリケーションのアクセス中に Sun Ray DTU から USB ディスクを取り外すと、無効なマウントポイントが Sun Ray サーバーに残ります。

## バグ ID 6387107

Windows ターミナルのセッションがアクティブな状態でホットデスクが繰り返されると、一部の Linux 実装で Sun Ray キーボードがハングアップすることがあります。

## バグ ID 6394230

キーストロークの入力フォーカスがマウスカーソルに追従します。マウスカーソルを gedit などの Solaris または Linux のテキストエディタから Windows ターミナルサーバーセッション上の同様のアプリケーションに動かすと、元のアプリケーションが選択されたままであるにもかかわらず、マウスカーソルとともに入力フォーカスが移ります。

## バグ ID 6395420

ユーザーが画面上でウィンドウをすばやく動かすと、uttsc がセグメント例外を発生する可能性があります。

## バグ ID 6402004

Sun Ray Connector は、uttscwrap を使用して Solaris10 x86 上で起動されると、サウンドデバイスを割り当てることができなくなります。その結果、オーディオが聞こえなくなります。この問題を回避するには、uttscwrap を使わずに直接 uttsc を起動します。



## バグ ID 6404368

デフォルトでは、Sun Type6 日本語キーボードが認識されません。

解決方法:

「-k "sun(type6jp) "」オプションをつけて、uttsc もしくは uttscwrapper を起動してください。

例:

```
% uttsc -k "sun(type6jp)" windows-server.sun.com
```

## バグ ID 6408886

日本語ロケール上で、オプション無しで、uttsc もしくは uttscwrapper を起動した場合、Windows Server 上で MS-IME が有効になりません。

解決方法:

「-l ja:IME」オプションをつけて、uttsc もしくは uttscwrapper を起動してください。

例:

```
% uttsc -l ja:IME windows-server.sun.com
```

---

## TSOL の制限事項

ユーザーのアクセス権が制限されているため、uttsc は、Trusted Solaris プラットフォーム上で新規のオーディオストリームを起動できません。その代わりに、デフォルトセッションのオーディオストリームを継続して使用します。したがって、常に TSOL サーバー上で再生できるオーディオアプリケーションは 1 つだけです。

---

## Windows の制限事項

Windows 2000 上では、次の機能はサポートされません。

- オーディオ
- ドライブのマッピング
- シリアルポートの切り替え

---

## マニュアルの発行

本製品の最新バージョンのマニュアルは、Sun Download Center (SDLC) から入手できます。